



第8次三重県医療計画（救急医療対策）の方向性について

第8次三重県医療計画（救急医療対策）の方向性について

- ・圏域の設定

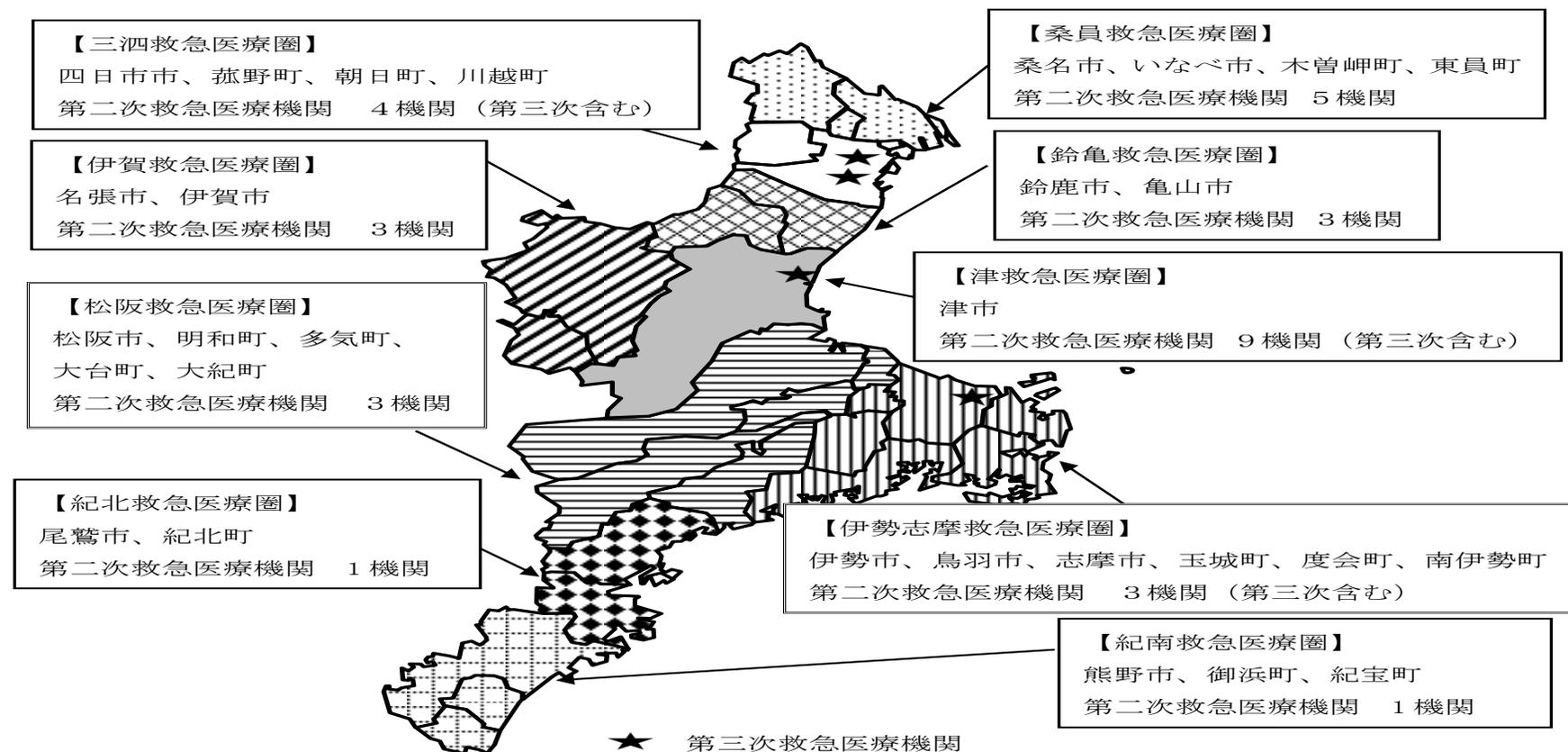
- ・めざす姿

- ・ロジックモデルの活用

- ・目標設定



【圏域の設定】 現行の圏域



事務局案

- 二次救急に係る圏域は、現在9つであり、この圏域ごとに病院群輪番制や病院前救護に係るメディカルコントロール体制が構築されている。
- 次期医療計画においても、引き続き**9圏域での体制の維持**を考えているがいかがか。

第8次三重県医療計画（救急医療対策）の方向性について

- ・圏域の設定

- ・めざす姿

- ・ロジックモデルの活用

- ・目標設定



現行計画のめざす姿

- 県民一人ひとりの受診行動の見直しや、医療機関の役割分担・機能分担が進むとともに、救急医療提供体制の整備が進んでいます。
- 行政、医療機関、関係団体等の協力のもと、県内全域においてメディカルコントロール体制が充実しています。
- 初期・第二次救急医療体制の充実や、重篤患者のドクターヘリによる迅速な搬送等による、第三次救急医療体制の充実が図られています。
- 救急医療を受けた患者が、回復期、維持期へと円滑に移行し、地域に戻ることができるよう、在宅医療および多職種が連携した地域医療提供体制が構築されています。

事務局案

- **めざす姿**については、第7次医療計画から引き続き取り組むべき課題が多いことから、**現行計画の維持**を基本としてはどうか。

第8次三重県医療計画（救急医療対策）の方向性について

- ・圏域の設定
 - ・めざす姿
 - ・ロジックモデルの活用
-

- ・目標設定



ロジックモデルとは

- 施策が目標とする成果を達成するに至るまでの論理的な関係を体系的に図式化したもの。
- 国の改正後指針において、施策の検討や計画の評価の際、また各々の施策と解決すべき課題との連関を示す際に、各都道府県においてロジックモデル等のツールの活用を検討することとされた。

イメージ図



ロジックモデル導入による効果

- 各計画の段階（現状把握、策定、評価、見直し等）に活用することで、PDCAサイクルの質の担保が期待でき、数値目標と施策の関連性を明確化できる。
- ロジックモデルの考え方を計画本文に落とし込むことで、論理的な計画の策定に繋がる。
- 一方、各疾病・事業等において、標準的なアウトカムの設定が難しい場合や、経年的な指標データの取得が困難な場合もある。

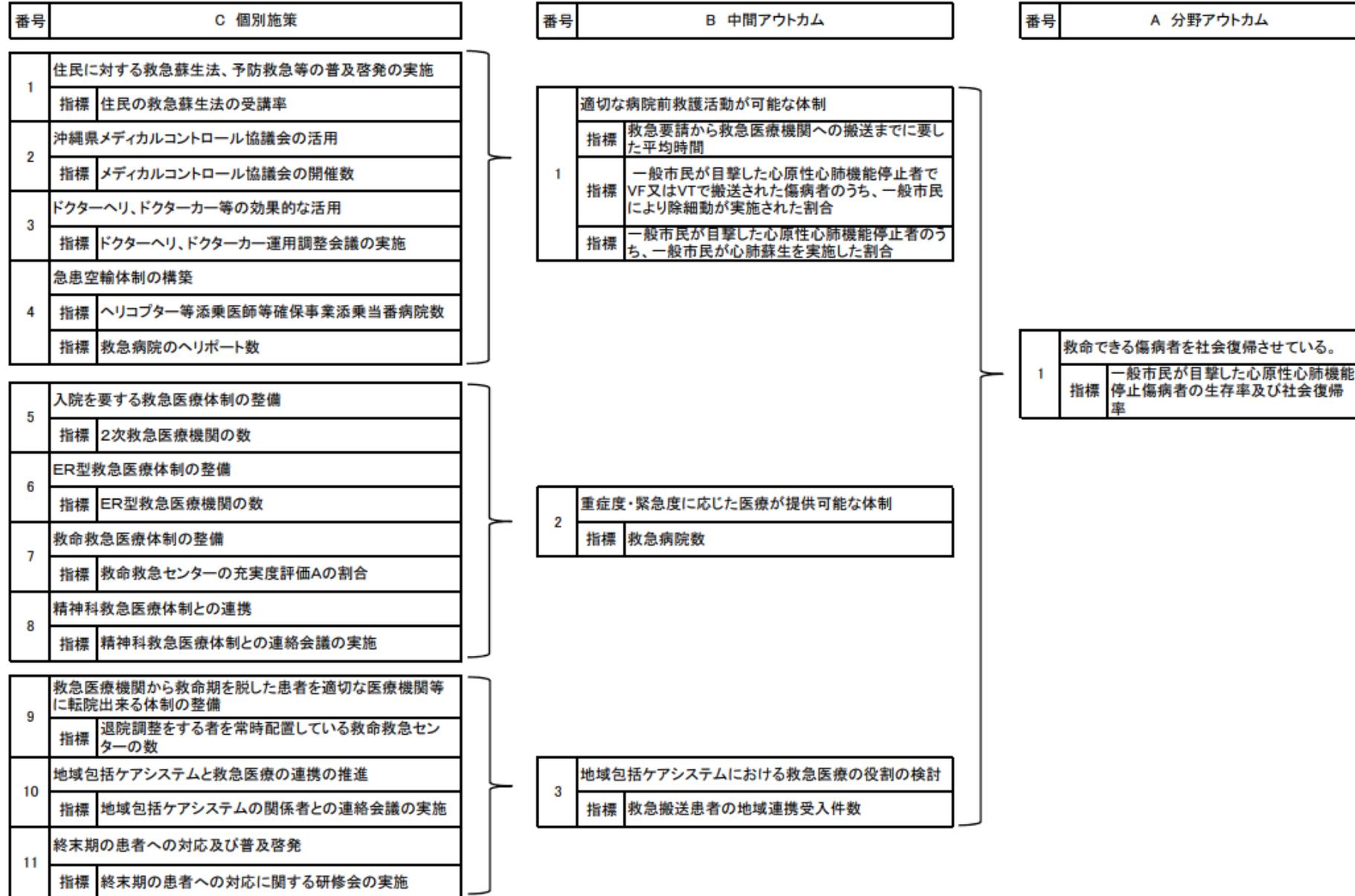
現 状

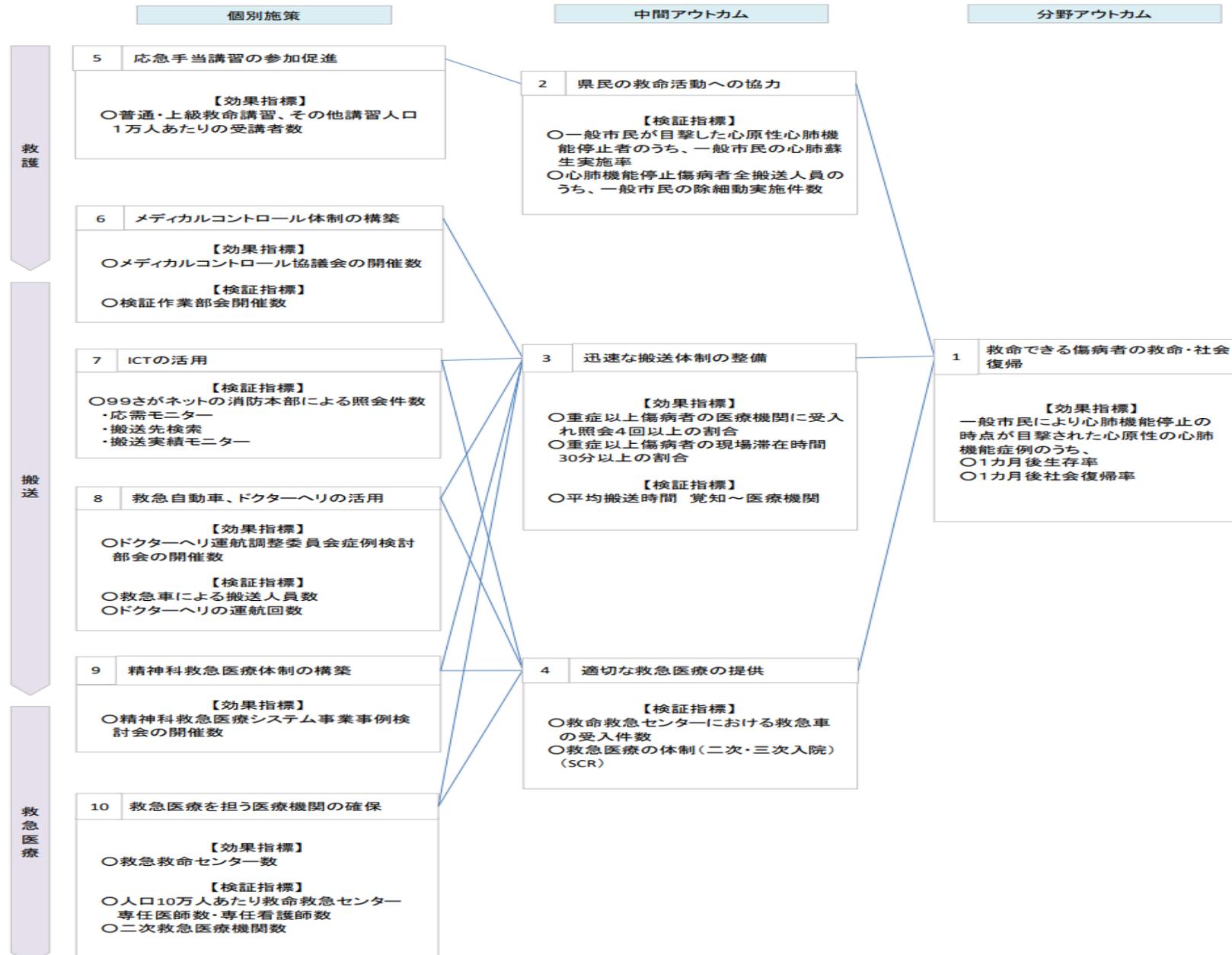
- 第7次三重県医療計画においては、ロジックモデルを導入しておらず、数値目標と施策の関連性が明確化されていない。

対応案

- 第8次医療計画においては、ロジックモデルを導入することとしてはどうか。
- 計画本文における「めざす姿」の在り方や、数値目標の関係性についても、ロジックモデルの考え方を基に議論してはどうか。

救急医療分野 施策・指標体系図





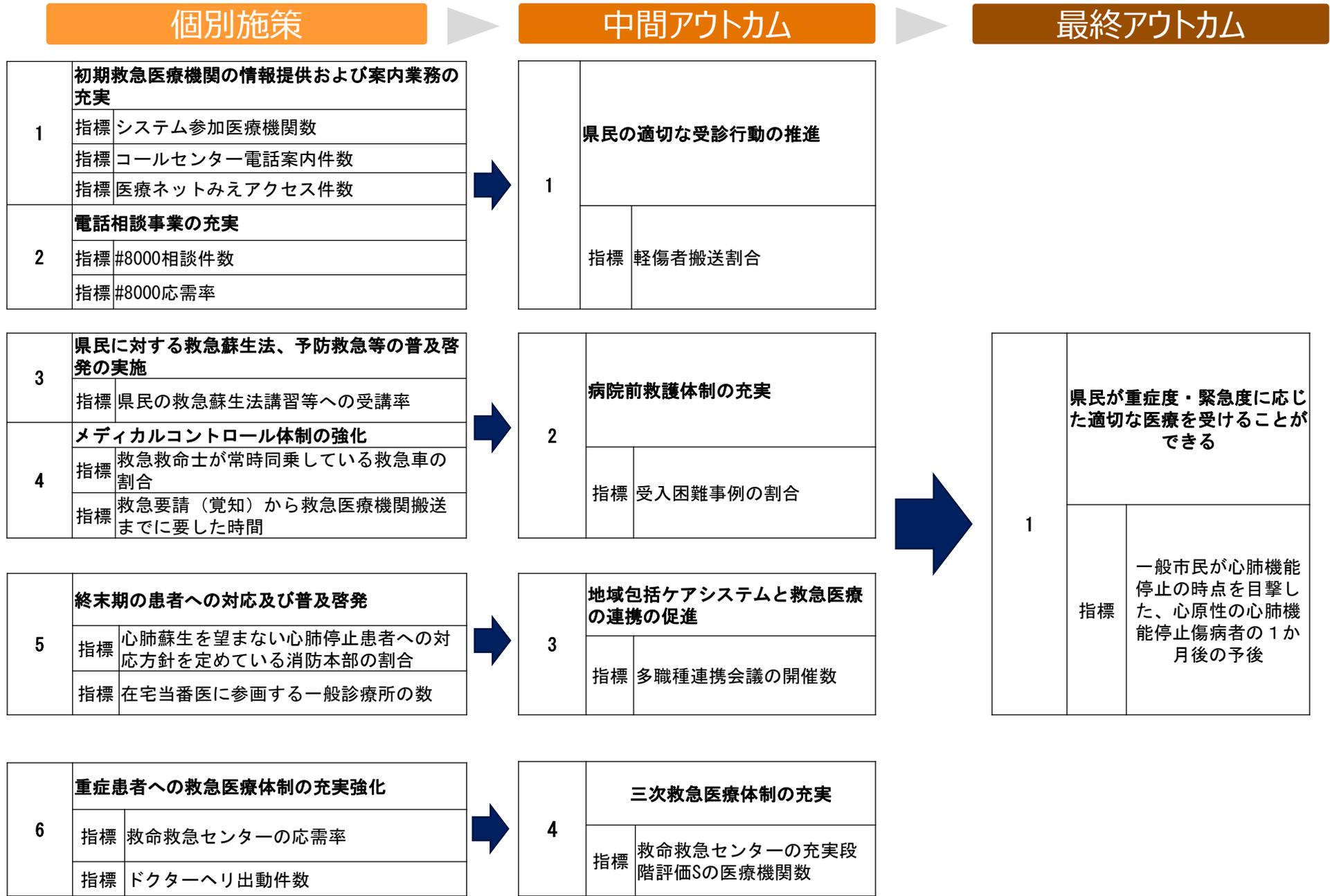
<参考：国の指標例（救急医療体制構築に係る現状把握のための指標例）について>

厚労省資料より抜粋

		病院前救護活動の機能【救護】	初期救急医療を担う医療機関の機能【初期救急医療】	入院を要する救急医療機関(第二次救急医療)の機能【入院救急医療】	救命救急医療機関(第三次救急医療)の機能【救命医療】	救命救急医療機関等からの転院を受け入れる機能【救命後の医療】
ストラクチャー	都道府県	運用救急救命士数	初期救急医療施設数	第二次救急医療機関数	救命救急センター数	● 転棟・転院調整をする者を常時配置している救命救急センター数
		住民の救急蘇生法の受講率	一般診療所の初期救急医療への参画率			
		● 心肺蘇生を望まない心肺停止患者への対応方針を定めている消防本部の割合				
	医療機関	● 救急搬送人員数			救急担当専任医師数・看護師数	
プロセス	都道府県	心肺機能停止傷病者(心肺停止患者)全搬送人員のうち、一般市民により除細動が実施された件数			救命救急センター充実段階評価Sの割合	
		● 救急要請(覚知)から救急医療機関への搬送までに要した平均時間				
		● 受入困難事例の件数				
	第二次救急医療機関等の救急医療機関やかかりつけ医、介護施設等の関係機関が参加したメディカルコントロール協議会や多職種連携会議等の開催回数					
医療機関				救急車の受入件数		緊急入院患者における退院調整・支援の実施件数
			転院搬送の実施件数			
				転院搬送の受入件数		
					救命救急センターの応需率	
アウトカム	心肺機能停止傷病者(心肺停止患者)の1ヶ月後の予後					
	● 心原性心肺機能停止傷病者(一般市民が目撃した)のうち初期心電図波形がVF又は無脈性VTの1ヶ月後社会復帰率					

(●は重点指標)

【ロジックモデルの活用】 第8次医療計画（救急医療対策）におけるロジックモデルイメージ



第8次三重県医療計画（救急医療対策）の方向性について

- ・圏域の設定
 - ・めざす姿
 - ・ロジックモデルの活用
 - ・目標設定
-



事務局案

- ロジックモデルにおける**最終アウトカム、中間アウトカムの指標を基本に数値目標**として定め、それ以外の指標については計画の進捗を把握するための指標とすることを検討してはどうか。

【目標設定】 第8次三重県医療計画（救急医療対策）の目標（案）

疾病・事業等	数値目標	策定時	中間評価時 (策定3年後)	現状値 (策定5年後)	目標値	
救急医療	救急医療情報システム参加医療機関数	654 【H28】	695 機関 【R2】	744 【R4】	747以上	
	受入困難事例の割合	現場滞在時間30分以上	3.8% 【H28】	2.8% 【R元】	4.1% 【R3】	3.3%以下
		医療機関への要請回数4回以上	2.3% 【H28】	1.1% 【R元】	1.5% 【R3】	2%以下
	救急搬送患者のうち、傷病程度が軽症であった人の割合	54.1% 【H28】	54.0% 【R元】	51.2% 【R3】	50.0%以下	
	救急救命士が同乗している救急車の割合	96.6% 【H28】	97.2% 【R元】	97.2% 【R3】	100%	
	地域で行われている多職種連携会議の開催回数	-	8回 【R2】	17回 【R4】	38回	

■ …変更箇所

上段：現行医療計画の数値目標



疾病・事業等	数値目標	策定時	中間評価時 (策定3年後)	現状値 (策定5年後)	目標値	
救急医療	救急医療情報システム参加医療機関数	744 【R4】			(検討中)	
	受入困難事例の割合	現場滞在時間30分以上	4.1% 【R3】			3.3%以下
		医療機関への要請回数4回以上	1.5% 【R3】			1.5%以下
	救急搬送患者のうち、傷病程度が軽症であった人の割合	51.2% 【R3】			47.6%以下	
	地域で行われている多職種連携会議の開催回数	17回 【R4】			38回	
	心肺機能停止傷病者（心肺停止患者）の 一ヶ月後の予後	生存率	7.6% 【R3】			11.1% (全国平均)
		社会復帰率	4.6% 【R3】			6.9% (全国平均)
	救命救急センターの充実段階評価Sの医療機関数		0% 【R4】			2機関

下段：第8次医療計画の数値目標（案）

第8次医療計画における数値目標の項目等について（事務局案）

○現行（第7次医療計画）から継続して取り組みたい項目

・救急医療情報システム参加医療機関数（検討中）

- （参考）現在744医療機関の参加があり、目標値の747医療機関をもう少しで達成出来る状況である。現行計画策定から6年で90医療機関増加しており、年平均では15医療機関の増加となっている。

・受入困難事例の割合

- 現場滞在時間30分以上の割合については、目標値を達成できていないため、**現状の目標値を維持**してはどうか。
- 医療機関への要請回数4回以上の割合については現状1.5%で目標を達成しており、策定時から6年間の平均値も1.5%であるため、**1.5%に引き下げて**はどうか。

・救急搬送患者のうち、傷病程度が軽症であった人の割合

- 令和3年度に策定した「みえ元気プラン」では、策定時（令和3年度）の51.6%から、毎年0.8%減少を目標にし、最終年度の令和8年度の目標値を47.6%に設定している。「みえ元気プラン」と同様に毎年0.8%減少を目標とすると、第8次医療計画の最終年度の目標値はさらに低い数値となるが、現在、目標値を達成できていないことも踏まえ、まずは「みえ元気プラン」の最終年度目標値である**47.6%に引き下げて**はどうか。なお、令和8年度までに目標値を達成した場合には、中間見直しにおいて再度検討したい。

・地域で行われている多職種連携会議の開催回数

- 各地域メディカルコントロール協議会（9）および市町（29）の数に変更がなく、現状値は17回と全ての地域で開催できていないことから**引き続き38回**を目標としてはどうか。

○新たに追加を検討したい項目

・心肺機能停止傷病者（心肺停止患者）の一ヶ月後の予後

- 生存率および社会復帰率ともに全国平均を下回っているため、まずは**全国平均（生存率11.1%、社会復帰率6.9%）**を目標値としてはどうか。

・救命救急センターの充実段階評価Sの医療機関数

- 三重大学医学部附属病院が令和2年、3年とS評価であった実績があり、県内に4つの救命救急センターがあることから**2医療機関**を目標としてはどうか。

① **第8次医療計画策定において設定する「めざす姿」、取組みが必要な課題、重点的に取り組むべき項目等について**

- 第7次三重県医療計画の取組状況、三重県の救急医療の現状、厚生労働省から示されている第8次医療計画の見直しのポイントを踏まえ、**設定する「めざす姿」、新たに取り組むべき課題、重点的に進めていくべき事項等の抽出**

② **ロジックモデルを活用した目標管理の取組について**

- ロジックモデルを用いた目標管理を導入してはどうか。
- ロジックモデルにおける**最終アウトカム、中間アウトカム、個別施策**においてイメージ案の他に考えられる**指標等**はあるか。

② **目標設定について**

- 本計画の**数値目標**は、ロジックモデルに基づいた**最終アウトカム、中間アウトカムの指標**を**基本**に設定することでよいか。
- **数値目標**の設定において**新たな指標の目標値**をどのように設定するか。また、第7次医療計画から**継続の数値目標の目標値**については適切か。